

教員免許状取得のための

学 修 録

2025年度 入学

(高等学校教諭一種 理科, 農業)

岐阜大学

応用生物科学部 () 学科

学籍番号	
氏 名	

全学共通 教職課程学修録確認表

この表は、学修録の記述の状況を所属学部及び教職課程支援センターの教員が確認するためのものです。

4年次後学期の教職実践演習では、学修録の記録をもとに演習を行います。各講義についてできる限り丁寧に記述してください。

		所属学部の確認			教職課程支援センターの確認				
		確認の月日	確認者の印		確認の月日	確認者の印			
1年次	前学期	年 月 日				年 月 日			
	後学期	年 月 日				年 月 日			
2年次	前学期	年 月 日				年 月 日			
	後学期	年 月 日				年 月 日			
3年次	前学期	年 月 日				年 月 日			
	後学期	年 月 日				年 月 日			
4年次	前学期	年 月 日				年 月 日			
	後学期	年 月 日				年 月 日			

- [注] 1 学修録は各学期の最終の授業時に返却し、指定された期間に教職課程支援センターへ提出する。
- 2 学修録の確認は「教職課程支援センター」→「所属学部」の順に行います。
- 3 学修録の記述が不十分な学生に対しては、教職課程支援センターで指導します。

は じ め に

1 学修録（学修記録ノート）作成の目的

この学修録は、岐阜大学（以下、「本学」という。）の工学部（電気電子・情報工学科応用物理コース）、応用生物科学部に入学した者の内、教育職員免許法（以下、「免許法」という。）で定める教育職員免許状（以下、「教員免許状」という。）の取得を希望する者が、卒業時に「教員としての力量」を確実に備えることができるように、4年間の「学び」を記録するものです。また、4年間の「学び」の中で身に付けた力を絶えずチェックして、日常の学修及び将来の教員としての職務に役立てることを目的として作成するものです。

教員免許状を取得するためには、所属する学部を卒業するために必要な単位を取得するほかに、教員免許状取得のための「教職に関する科目」、「教科に関する科目」などの単位の履修・修得が必要です。これらの教員免許状を取得するための課程を「教職課程」といいます。したがって、この学修録は「教職課程に関わる学修の自分の歩みの記録」という意味をもつものです。「教職課程」は、学校教育に関わる様々な授業や実習等で編成されており、1年次から順次積み上げて履修・修得していくことになります。

このような様々な授業科目・教育実習を終えた4年次の後学期には「教職実践演習」という授業が開講されます。この「教職実践演習」ではこの学修録の記録や教育実習の記録などを基にして「教員として必要な知識・技能」の修得の状況を確認するとともに不十分な面を補完し、卒業後教員としての「確かな力」を身に付けて教育に携わることができるようにすることを「到達目標」としています。

ここでいう「教員として必要な知識・技能」としては、次の様な事項が上げられています。

- ① 教員としての使命感、教育的愛情に関する事項
- ② 教員としての社会性や対人関係能力に関する事項
- ③ 高等学校教諭としての生徒理解やホームルーム経営等に関する事項
- ④ 高等学校教諭としての教科に関する内容等の指導力に関する事項

4年次前学期までに「教職課程」の様々な授業、教育実習に参加することによって、これらの力を培い、その上で「教職実践演習」に臨んで欲しいと思います。

学部の専門教育を受けながら「教職課程」を履修・修得することは大変なことです。が、「教員免許状の取得」という所期の目的を達成するために、この学修録を丁寧に作成し、有効に活用されることを期待しています。

2 学修録（学修記録ノート）の機能と使い方

(1) 教職課程の授業や実習を履修して、どのような力が身に付いたかを振り返りチェックすると同時に今後の自己課題を明確にする。

ア 各学期の授業が始まる前に、教職課程として受講する科目を決定し、その授業の到達目標を確認した上で履修予定を総括表に記入する。

イ 各学期の授業が終わった後に、科目毎に「学んだこと」や「今後の自己課題」を明確にし、「学修の記録」（様式は後記）に記述する。各科目の修得の有無を確認して総括表に記入する。

ウ 指定された期日に学部（学科・課程）及び教職課程支援センターの担当教員に提出し指導を受ける。

(2) 「教職課程」の内容に関わって自分が作成した資料等が散逸しないようにファイルとして綴じ、ポートフォリオとして活用できるようにする。

(3) この学修録は4年次後学期に開講される「教職実践演習」で活用する。

3 「教員免許状取得のための学修録」の作成及び活用の基本方針

- 1 「教員免許状取得のための学修録」（以下、「学修録」という。）は、学生個人が所持する。
「教員免許法施行規則第66条の6に関する科目」、「教科に関する科目」、「教職に関する科目」の学修は配布した記入用紙に記録する。
- 2 「学修録」は、教職課程の学修の全体像が自分に分かるものとする。
「本学における教職課程（教育学部は除く。）」の概要の説明資料をファイルの冒頭に綴じておき常に「教職課程」全体と個々の科目の学修の位置づけを明確にしておく。
- 3 「学修録」は、自らが教員になるという自覚を深められるものとする。
配布した教職課程の資料は、自らが教員を目指すという自覚を深めることにつながるものである。これらをファイルして学修の参考とする。
- 4 各科目の履修予定、履修状況を自分自身で明確にし、大学の教員も確認し易いものとする。
「教職課程」の各科目の履修予定や履修状況を各科目の一覧表に学期初め、学期末に記述し、自ら計画や状況を確認できるようにしておく。
- 5 「学修録」は、学修の足跡を記述して残すことを基本とする。
各科目の学修の成果やその科目の学修に対する今後の自己課題を定められた様式に記述して残り、学修の振り返りに生かせるものとする。記述に当たっては、その科目のシラバスの目標、カリキュラムマップの「必要な資質・能力の指標」を参考にし、コンパクトに整理しておく。
- 6 「学修録」は、ポートフォリオとして活用できるよう「ファイル形式」で整理する。
「教職課程」の学修で作成した資料、レポート、収集した資料等をファイルに綴じ、蓄積する。
- 7 「学修録」の提出は、各学期初めの指定された時期とする。
「学修録」の記述は各学期の授業終了後に行い、次の学期の初めの指定された期日に提出する。提出後は教職課程支援センター及び学部（学科・課程）で記述内容等の確認を行い返却する。
- 8 「学修録」は、4年次後学期の「教職実践演習」で活用する。
「教職実践演習」は教育課程での学修、教育実習を振り返り、学校教育の場で教師に求められる資質や能力を確認するとともに、不十分な点を補完するために行うものである。学修録は、この演習での各科目の学修や教育実習の振り返りで生かせるものとする。
- 9 上記に定めるものの他、各学部（学科・課程）で必要なものは付加するものとする。

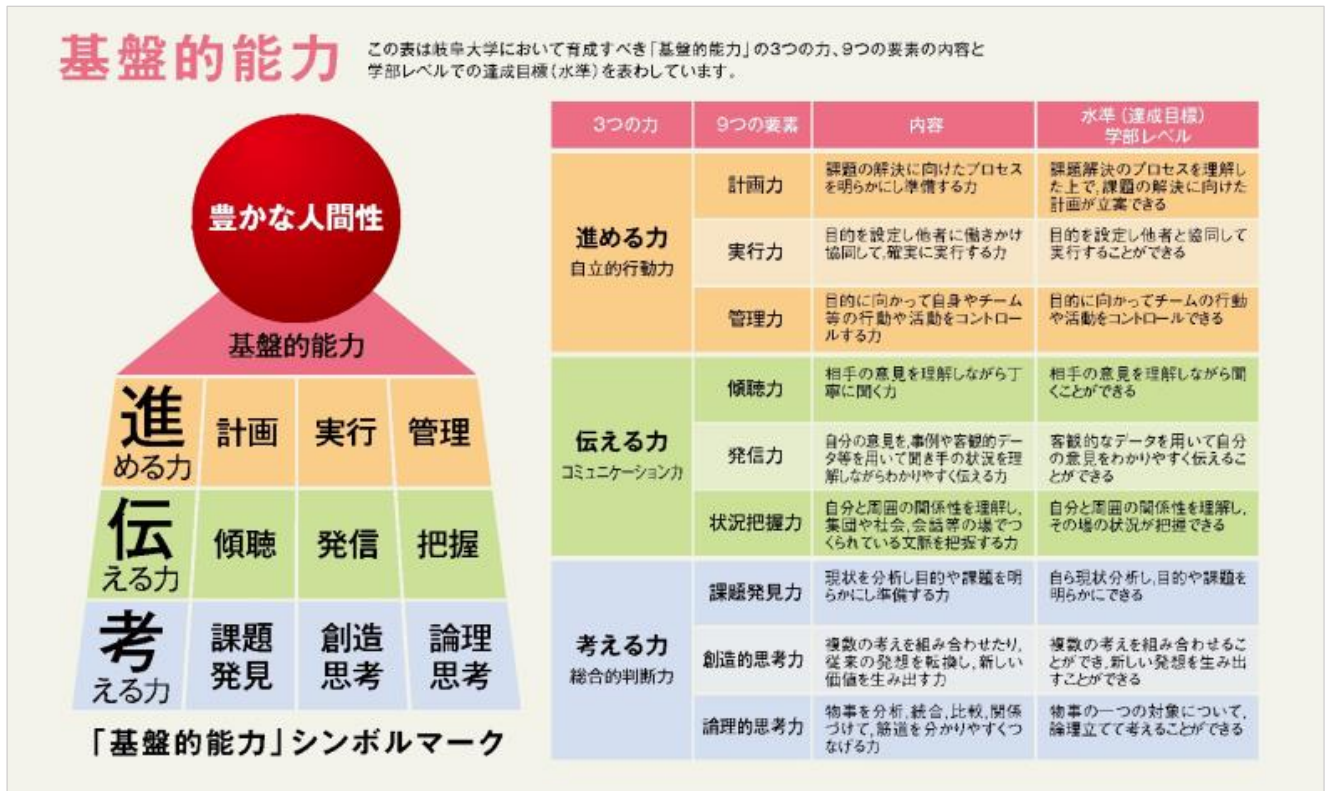
2023年4月1日

岐阜大学 教育推進・学生支援機構 教職課程支援センター

- [注] 「履修」：各授業科目の講義、演習及び実験等の授業に出席し、各自の自習を含めて学ぶことをいう。
「修得」：授業科目を履修した上で、定期試験等を受験するなどして、単位が認定された場合のことをいう。
- 「ポートフォリオ」：個人の活動記録をファイルしたもの。学びの過程で用いるポートフォリオは、自発的に学びの伸びや変容を多面的多角的、かつ長期的に評価し、新たな学びに生かすために学修物を集めたものをいう。

1 岐阜大学（教育学部を除く）における「教職課程」の理念

(1) 岐阜大学学生憲章……基盤的能力



(2) 岐阜大学全学共通「教職課程」の理念

岐阜大学全学共通「教職課程」は、上記の「基盤的能力」の上に立って、以下を理念とする。

1 確かな「専門性」をもつ

自分が所属する「学部」及び「学科・課程」における「教育の目的・目標」に沿って、確かな専門性を身に付けること。

2 「学部の専門性」と「高等学校の教科・科目」との関連性を捉える

各学部で身に付ける「専門性」は、「高等学校の教科・科目」の指導内容そのものではない。学部の学科・課程で学んだ「専門性」と教員免許状の「高等学校の教科・科目」の指導内容とをつないで捉える能力を身に付けること。

3 「教職」に関する基礎的知識と素養をもつ

教育という仕事は、上記の1、2だけではなく、教員として必要な「教職」に関する基礎的な知識と素養が求められる。教職全体に関する確かな基礎知識と素養を身に付けること。

4 自らの「人間性」を高める

子どもの成長に直接関わる教育の仕事に携わる者は、社会人・職業人として持たなければならない「常識」とともに、自分自身の「人間性」を高めようとする「学びの姿勢」を身に付けること。

2 岐阜大学における「教職課程」の単位の履修・修得

教員免許状を取得するための「基礎資格」と「必要な単位数（最低単位数）」

基礎資格	学士の学位を有すること（学部を卒業すること）		
免許状取得に必要な単位数	① 免許法施行規則第66条の6に定める科目		8 単位
	②教科及び教科の指導法に関する科目	※ 1 教科に関する科目	24 単位
		※ 2 教科の指導法に関する科目	
	③教育の基礎的理解に関する科目		10 単位
	④道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		8 単位
	⑤教育実践に関する科目		5 単位
	⑥大学が独自に設定する科目		12 単位
	計		67 単位

3 教員免許状を取得するための4年間のスケジュール

年次	月	主なスケジュール	履修時期と単位数		
1 年 次	4	入学式 <教職課程ガイダンス> ■履修登録（前学期）	免許法施行規則第66条の6に定める科目 8単位	教科に関する科目 32単位（20＋12）	教職に関する科目 下記を除く22単位数
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10	■履修登録（後学期）			
	11				
	12				
	1				
	2				
	3	○学期末ごと「学修録」の記載・点検			
2 年 次	4	■履修登録（前学期）	免許法施行規則第66条の6に定める科目 8単位	教科に関する科目 32単位（20＋12）	教職に関する科目 下記を除く22単位数
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10	■履修登録（後学期）			
	11				
	12				
	1				
	2	<教育実習ガイダンス> 2月			
	3	○学期末ごと「学修録」の記載・点検			
3 年 次	4	■履修登録（前学期）	免許法施行規則第66条の6に定める科目 8単位	教科に関する科目 32単位（20＋12）	教職に関する科目 下記を除く22単位数
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10	■履修登録（後学期）			
	11				
	12				
	1				
	2	<教育実習事前指導> 2月			
	3	○学期末ごと「学修録」の記載・点検			
4 年 次	4	■履修登録（前学期）	免許法施行規則第66条の6に定める科目 8単位	教科に関する科目 32単位（20＋12）	教職に関する科目 下記を除く22単位数
	5	<教育実習>			
	6	□教員採用試験			
	7				
	8				
	9	<教育実習事後指導> 9月			
	10	■履修登録（後学期）			
	11	<免許状申請説明会・申請手続>			
	12				
	1	○「学修録」の最終整理・点検			
	2				
	3	卒業式 ◎教育職員免許状交付			

4 教員免許状取得のための学修の記録

(1)「免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」の履修・修得

1「免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」の履修・修得

免許法施行規則 に定める科目	授 業 科 目 名	単 位 数	履修計画○ → 単位修得●								評 価	
			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		授業 者による 評価	自己 評価
			前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期		
日本国憲法												
体 育												
外国語コミュニ ケーション												
情報機器の操作												

[記入方法]

- ① 「授業科目名」を記入する。
- ② 「履修予定の時期」に○印を付ける。
- ③ 「単位修得」を確認したら、○印を●印に変える。(以下同様)

[評価] 学修した内容の理解の程度(A：十分 B：概ね十分 C：やや不十分 D：不十分)

2 学修の記録

授業科目名	日本国憲法：	教員名		年次	学期
■ 学んだこと					
					確 認

授業科目名	体育：	教員名		年次	学期
■ 学んだこと					
					確 認

授業科目名	外国語コミュニケーション①：	教員名		年次	学期
■ 学んだこと					
					確 認

授業科目名	外国語コミュニケーション②：	教員名		年次	学期
■ 学んだこと					
					確認

授業科目名	外国語コミュニケーション③：	教員名		年次	学期
■ 学んだこと					
					確認

授業科目名	情報機器の操作①：	教員名		年次	学期
■ 学んだこと					
					確認

授業科目名	情報機器の操作②：	教員名		年次	学期
■ 学んだこと					
					確認

(2)「教科に関する科目」の履修・修得

1 「教科に関する科目」の履修計画及び修得確認(総括表)

※ 学部が定める「教科に関する科目一覧」(5～9頁参照)より選択し、履修予定を○印、単位を修得したら●印に変える。

[自己評価] 学修した内容の理解の程度 (A: 十分 B: 概ね十分 C: やや不十分 D: 不十分)

[illegible]

【備考】 高等学校教諭一種免許状(理科, 農業)を取得するには, 免許法施行規則に定める「科目区分等」の「最低修得単位数」を満たさなければならないので留意すること。

[illegible]

教科 No.

授業科目名		教員名	年次 学期
授業の目標 シラバスより			
■ 主な学修内容			
■ 自己評価(学修内容の理解の程度：該当項目に○印) □ A：十分 □ B：概ね十分 □ C：やや不十分 □ D：不十分			確認

授業科目名		教員名	年次 学期
授業の目標 シラバスより			
■ 主な学修内容			
■ 自己評価(学修内容の理解の程度：該当項目に○印) □ A：十分 □ B：概ね十分 □ C：やや不十分 □ D：不十分			確認

教科 No.

授業科目名		教員名	年次 学期
授業の目標 シラバスより			
■ 主な学修内容			
■ 自己評価(学修内容の理解の程度：該当項目に○印) □ A：十分 □ B：概ね十分 □ C：やや不十分 □ D：不十分			確認

授業科目名		教員名	年次 学期
授業の目標 シラバスより			
■ 主な学修内容			
■ 自己評価(学修内容の理解の程度：該当項目に○印) □ A：十分 □ B：概ね十分 □ C：やや不十分 □ D：不十分			確認

教科 No.

授業科目名		教員名	年次 学期
授業の目標 シラバスより			
■ 主な学修内容			
■ 自己評価(学修内容の理解の程度：該当項目に○印) □ A：十分 □ B：概ね十分 □ C：やや不十分 □ D：不十分			確認

授業科目名		教員名	年次 学期
授業の目標 シラバスより			
■ 主な学修内容			
■ 自己評価(学修内容の理解の程度：該当項目に○印) □ A：十分 □ B：概ね十分 □ C：やや不十分 □ D：不十分			確認

教科 No.

授業科目名		教員名	年次 学期
授業の目標 シラバスより			
■ 主な学修内容			
■ 自己評価(学修内容の理解の程度：該当項目に○印) □ A：十分 □ B：概ね十分 □ C：やや不十分 □ D：不十分			確認

授業科目名		教員名	年次 学期
授業の目標 シラバスより			
■ 主な学修内容			
■ 自己評価(学修内容の理解の程度：該当項目に○印) □ A：十分 □ B：概ね十分 □ C：やや不十分 □ D：不十分			確認

教科 No.

授業科目名		教員名	年次 学期
授業の目標 シラバスより			
■ 主な学修内容			
■ 自己評価(学修内容の理解の程度：該当項目に○印) □ A：十分 □ B：概ね十分 □ C：やや不十分 □ D：不十分			確認

授業科目名		教員名	年次 学期
授業の目標 シラバスより			
■ 主な学修内容			
■ 自己評価(学修内容の理解の程度：該当項目に○印) □ A：十分 □ B：概ね十分 □ C：やや不十分 □ D：不十分			確認

教科 No.

授業科目名		教員名	年次 学期
授業の目標 シラバスより			
■ 主な学修内容			
■ 自己評価(学修内容の理解の程度：該当項目に○印) □ A：十分 □ B：概ね十分 □ C：やや不十分 □ D：不十分			確認

授業科目名		教員名	年次 学期
授業の目標 シラバスより			
■ 主な学修内容			
■ 自己評価(学修内容の理解の程度：該当項目に○印) □ A：十分 □ B：概ね十分 □ C：やや不十分 □ D：不十分			確認

教科 No.

授業科目名		教員名	年次 学期
授業の目標 シラバスより			
■ 主な学修内容			
■ 自己評価(学修内容の理解の程度：該当項目に○印) □ A：十分 □ B：概ね十分 □ C：やや不十分 □ D：不十分			確認

授業科目名		教員名	年次 学期
授業の目標 シラバスより			
■ 主な学修内容			
■ 自己評価(学修内容の理解の程度：該当項目に○印) □ A：十分 □ B：概ね十分 □ C：やや不十分 □ D：不十分			確認

教科 No.

授業科目名		教員名	年次 学期
授業の目標 シラバスより			
■ 主な学修内容			
■ 自己評価(学修内容の理解の程度：該当項目に○印) □ A：十分 □ B：概ね十分 □ C：やや不十分 □ D：不十分			確認

授業科目名		教員名	年次 学期
授業の目標 シラバスより			
■ 主な学修内容			
■ 自己評価(学修内容の理解の程度：該当項目に○印) □ A：十分 □ B：概ね十分 □ C：やや不十分 □ D：不十分			確認

教科 No.

授業科目名		教員名	年次 学期
授業の目標 シラバスより			
■ 主な学修内容			
■ 自己評価(学修内容の理解の程度：該当項目に○印) □ A：十分 □ B：概ね十分 □ C：やや不十分 □ D：不十分			確認

授業科目名		教員名	年次 学期
授業の目標 シラバスより			
■ 主な学修内容			
■ 自己評価(学修内容の理解の程度：該当項目に○印) □ A：十分 □ B：概ね十分 □ C：やや不十分 □ D：不十分			確認

教科 No.

授業科目名		教員名	年次 学期
授業の目標 シラバスより			
■ 主な学修内容			
■ 自己評価(学修内容の理解の程度：該当項目に○印) □ A：十分 □ B：概ね十分 □ C：やや不十分 □ D：不十分			確認

授業科目名		教員名	年次 学期
授業の目標 シラバスより			
■ 主な学修内容			
■ 自己評価(学修内容の理解の程度：該当項目に○印) □ A：十分 □ B：概ね十分 □ C：やや不十分 □ D：不十分			確認

(3) 「教職に関する科目」の履修・修得

1 「教職に関する科目」の履修計画及び修得確認(総括表)

※ 履修予定を○印、単位を修得したら●印に変える。評価欄は 12 頁と同じ

免許法施行規則 上の区分	授 業 科 目 名	単 位 数	履修計画○ → 単位修得●								評 価	
			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		授業 者による 評価	自己 評価
			前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期		
教科及び教科の 指導法に関する 科目	理科教育法Ⅰ	2										
	理科教育法Ⅱ	2										
	農業科教育法Ⅰ	2										
	農業科教育法Ⅱ	2										
教育の基礎的理 解に関する科目	教育原論	2										
	教師論	2										
	教育経営論	2										
	教育・学校心理学（高等学校）	1										
	特別支援教育論（高等学校）	1										
	教育課程論	2										
道徳，総合的な 学習の時間等の 指導法及び生徒 指導，教育相談 等に関する科目	総合的な探究の時間及び特別活 動等の指導法	2										
	教育の方法及び技術 （ＩＣＴ活用を含む）	2										
	生徒指導と進路指導	2										
	学校教育相談	2										
教育実践に関す る科目	教育実習事前事後指導 （高等学校）	1										
	高等学校教育実習	2										
	教職実践演習（高等学校）	2										

2 学修の記録

授業科目名	理科教育法Ⅰ [2単位]	教員名	年次	学期
授業目標 (自己評価の基準: A=十分 B=概ね十分 C=やや不十分 D=不十分) 自己評価				
① 学習指導要領に基づいて担当する教科に関する教育の目的や目標及び主な指導内容を理解する。				
② 担当する教科の教材研究(教材解釈、教材開発及び指導過程の工夫等)の在り方を理解する。				
③ 担当する教科の単元指導計画や学習指導案の作成方法を理解し、実際に作成できる。				
■学んだこと				
■今後の自己課題				
				確認

授業科目名	理科教育法Ⅱ [2単位]	教員名	年次	学期
授業目標 (自己評価の基準: A=十分 B=概ね十分 C=やや不十分 D=不十分) 自己評価				
① 学習指導要領に基づいて担当する教科に関する教育の目的や目標及び主な指導内容を理解する。				
② 担当する教科の教材研究(教材解釈、教材開発及び指導過程の工夫等)の在り方を理解する。				
③ 担当する教科の単元指導計画や学習指導案の作成方法を理解し、実際に作成することができる。				
■学んだこと				
■今後の自己課題				
				確認

授業科目名	農業科教育法Ⅰ [2単位]	教員名	年次	学期
授業目標 (自己評価の基準: A=十分 B=概ね十分 C=やや不十分 D=不十分) 自己評価				
① 学習指導要領に基づいて担当する教科に関する教育の目的や目標及び主な指導内容を理解する。				
② 担当する教科の教材研究(教材解釈、教材開発及び指導過程の工夫等)の在り方を理解する。				
③ 担当する教科の単元指導計画や学習指導案の作成方法を理解し、実際に作成ができる。				
■学んだこと				
■今後の自己課題				
				確認

授業科目名	農業科教育法Ⅱ [2単位]	教員名	年次	学期
授業目標 (自己評価の基準: A=十分 B=概ね十分 C=やや不十分 D=不十分) 自己評価				
① 学習指導要領に基づいて担当する教科に関する教育の目的や目標及び主な指導内容を理解する。				
② 担当する教科の教材研究(教材解釈、教材開発及び指導過程の工夫等)の在り方を理解する。				
③ 担当する教科の単元指導計画や学習指導案の作成方法を理解し、実際に作成ができる。				
■学んだこと				
■今後の自己課題				
				確認

授業科目名	教育経営論 [2単位]	教員名	年次	学期
授業目標 (自己評価の基準: A=十分 B=概ね十分 C=やや不十分 D=不十分) 自己評価				
① 学校教育に関する法規の体系や法の構造の全体像を理解できる。				
② 学校教育の現場における教育法規の実際的应用のスキルを習得できる。				
③ 教育法規の学修を通して、学校教育(学校経営)について全体的な理解ができる。				
■学んだこと				
■今後の自己課題				
				確認

授業科目名	教育・学校心理学(高等学校) [1単位]	教員名	年次	学期
授業目標 (自己評価の基準: A=十分 B=概ね十分 C=やや不十分 D=不十分) 自己評価				
① 各領域(認知, 社会性, 運動)における発達の具体的内容を理解することができる。				
② 基本的な学習過程を理解させ、支える動機づけ・記憶の特性を理解することができる。				
③ 幼児, 児童の心身の発達について、代表的な発達段階を踏まえそれぞれが有する固有の発達の意味を理解することができる。				
■学んだこと				
■今後の自己課題				
				確認

授業科目名	特別支援教育論(高等学校) [1単位]	教員名	年次	学期
授業目標 (自己評価の基準: A=十分 B=概ね十分 C=やや不十分 D=不十分)				自己評価
① 特別支援教育制度について、その概要を学修する。				
② 高等学校における特別支援教育の意義と役割について理解を深める。				
③ 特別支援教育の対象となる障害の理解、特に、発達障害の特性と支援について学修する。				
■学んだこと				
■今後の自己課題				
				確認

授業科目名	教育課程論 [2 単位]	教員名	年次	学期
授業目標（自己評価の基準：A＝十分 B＝概ね十分 C＝やや不十分 D＝不十分）				自己評価
① 教育課程の意義・目的及び各学校で教育課程を編成するための基本的事項を理解できる。				
② 教育課程に関する法規定，学習指導要領及びその歴史の変遷を理解できる。				
③ 教科や領域ごとの教育課程の編成と実施及び評価等，基本的な事項を多面的に捉えることができる。				
■学んだこと				
■今後の自己課題				
				確認

授業科目名	総合的な探究の時間及び特別活動等の 指導法 [2 単位]	教員名	年次	学期
授業目標 (自己評価の基準: A=十分 B=概ね十分 C=やや不十分 D=不十分) 自己評価				
① 総合的な探究の時間の意義や, 指導計画の作成の考え方等を理解することができる。				
② 総合的な探究の時間の指導と評価の考え方, 実践上の留意点等を理解することができる。				
③ 特別活動の意義, 目標及び内容並びに指導の在り方を理解することができる。				
■学んだこと				
■今後の自己課題				
				確認

授業科目名	教育の方法及び技術 (ICT活用を含む) [2 単位]	教員名	年次	学期
授業目標 (自己評価の基準: A=十分 B=概ね十分 C=やや不十分 D=不十分) 自己評価				
① これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。教育の技術に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。				
② 教育の目標に適した指導技術を理解し, 教育目的に適した学習指導案を作成し, 作成した学習指導案に基づいた授業を実施できる。				
③ 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務推進のあり方, 情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身につける。				
■学んだこと				
■今後の自己課題				
				確認

授業科目名	生徒指導と進路指導 [2単位]	教員名	年次	学期
授業目標 (自己評価の基準: A=十分 B=概ね十分 C=やや不十分 D=不十分) 自己評価				
① 生徒指導・進路指導の学校生活全般における意義や目的について理解を深める。				
② 児童生徒の発達課題に基づく問題行動を理解し、その心理的な理解や対応の在り方を概観する。				
③ 進路指導の理論や方法を学び、進路指導の実践的な指導の在り方について理解を深める。				
■学んだこと				
■今後の自己課題				
				確認

授業科目名	学校教育相談 [2単位]	教員名	年次	学期
授業目標 (自己評価の基準: A=十分 B=概ね十分 C=やや不十分 D=不十分) 自己評価				
① 教育相談の理論に関する基礎的な知識や教育現場における活用について理解を深める。				
② 児童・生徒へのアセスメントの意義を理解し、対応の在り方について事例を通して理解できる。				
③ 児童・生徒の心身の発達に応じて生じる様々な状態の理解と援助の在り方について理解を深める。				
■学んだこと				
■今後の自己課題				
				確認

[illegible]

授業科目名	高等学校教育実習 [2単位]	実習校名	高等学校
実 習 期 間	年 月 日 () ~ 年 月 日 ()		
■ 教育実習での成果と課題（教育実習レポートを貼付）			

